スマートドライブ宣言

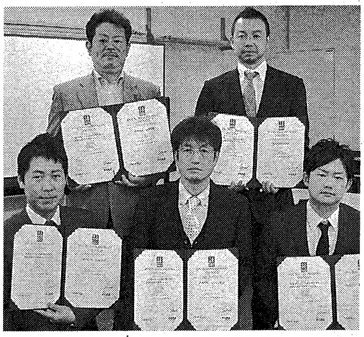
会員5社、取得第1号

岐ト協青年部会

【岐阜】岐阜県トラック協会青年部会（松井善行部会長）の会員企業5社は21日、交通事故防止のため一年間行った「スマートドライブ宣言」の評価証明書を取得した。ノルウェーに本部を置くISO審査登録機関「デット・ノルスケ・ベリタス」（DNV）が評価するもので、トラック事業者向けに策定された新しい取り組み。5社は、そろって取得事業者第1号となった。

あおいコンサルタント（名古屋市中区）の山本昌幸社長が、安全性優良事業所認定（Gマーク）と道路交通安全マネジメントシステムの国際規格ISO39001の中間に位置する事故防止対策として、スマートドライブ宣言を考案。DNVが評価し、基準をクリアしたトラック事業者に証明書を発行する枠組みを策定した。

内容には、国土交通省の運輸安全マネジメント義務事項、39001の要求事項、Gマーク評価項目などを盛り込んだ。徹底すべき点として、①経営トップの安全に対する覚悟を公表②事故の再発防止・予防予知③ドライバーの個人目標展開④マナーが良い運転宣言⑤社内監査の実施——を定めた。



証明書を見せる（後列左から）松井氏、山田氏、（前列左から）山本氏、嶋倉氏、鎌田氏

昨年5月、同青年部会の有志が取得に向け、取り組みをスタート。月1回の研修会、PDCA（計画—実行—評価—改善）サイクルによるミーティングや社内監査などで安全レベルの底上げを図った結果、松井急便（松井善行社長、恵那市）、恵武急便（牧野恵聰社長、同）、山本急行（山本英史社長、同）、ユニオン物流（嶋倉紀行社長、中津川市）、鎌田物流サービス（鎌田則之社長、同）の各社が評価基準をクリア。

山本急行本社で授与式が開かれ、松井社長、恵武急便の山田有恒取締役、山本社長、嶋倉社長、鎌田物流サービスの鎌田大将総務部長が、DNVビジネス・アシュアランス・ジャパン（神戸市中央区）の前田直樹社長から評価証明書を受け取った。

前田氏が「我々は厳しい審査がポリシーだが、名と実を兼ね備えた良い仕組みになった。皆さんの熱意を感じた」と挨拶。あおいコンサルタントの山本氏は「5社は、安全対策はもとより、労務管理や運行管理など全ての点でレベルが高かった。Gマークより高度で、ISOほど手間と費用が掛からない取り組みとして、全国に広げていきたい」と述べた。

また、松井氏は「取得済みのGマークよりも少しレベルが高く勉強になった。今後は定期的に再評価を受ける必要がある。その継続性がスマートドライブの価値」と話した。（星野誠）

処理キット、車両に搭載

トラックのオイル漏れ備え

東電運輸

協力会社にも配布

【三重】東電運輸（伊坂洋二社長、三重県四日市市）は4月中旬、トラックのオイル漏れに備えた処理キット90個を製作し、自社と協力会社の車両に搭載した。（星野誠）

オイル漏れ処理キットを手にする女性社員

オイル漏れ処理用の吸着マット2枚を、全てのトラックに載せていたが、対策として不十分だと判断。どんなケースにも対応できるよう市販の処理キットに必要なアイテムを追加するなどカスタマイズを行った。

桜木忍取締役は「ウイング車の荷台を開閉する油圧装置から、オイルが漏れる事例があり、既存の対策で良いのか再検討した」と説明。2009年以降に製造されたトラックは、ホース構造などで二重三重のオイル漏れ対策が施されている。しかし、古い年式のトラックはホースが経年劣化すると、オイル漏れが起こりやすくなる。

「吸着マット2枚では、オイル2㍑分しか処理できないため、大量に漏れた場合は対応できない。逆に少量なら、中和剤とブラシだけで素早く処理できる。エンジンオイルや燃料の漏れも含め、起こりうる様々なケースを想定した」

吸着マット5枚、紙製ウエス10枚、中和剤1本が入った市販キット90個を用意。更に、オイル4㍑を受けられるトレー、ビニール手袋、ガムテープ、ゴミ袋、布製ウエス、ブラシ、水を吹き付けるハンディースプレーを別途購入し、これら一式をマニュアルと共に、女性社員が透明なビニール製バッグに詰めていった。

完成した処理キットは、女性でも持ち運びできるコンパクトなサイズに収まった。本社と豊田営業所（愛知県豊田市）のトラック70両に加え、協力会社の20両にも配布。1個当たり5千円、90個で45万円だった。

「総額45万円と決して安くなかったが、備えあれば憂いなし。今後の課題は廃油処理ネットワークの確保になる。全ての配送エリアで対応できるように、専門業者の選定などを進めていきたい」

JL東海北陸/運管指導講習

岐・三ト協が会員補助

一般3100円、基礎8700円

【愛知】JL連合会の東海・北陸地域本部（山崎秀克本部長）が実施する運行管理者等指導講習会で、岐阜県トラック協会（田口義隆会長）と三重県トラック協会（西野衛会長）の会員は今年度、両協会から受講料を負担してもらえる。

3月末、運行管理者等指導講習受講に関する協定書を結んだ。前年度開かれた8回の講習には計270人が参加したものの、受講料は個人支払いで、トラック協会の助成が受けられないか相談が寄せられていた。

そのため、中部各県のトラック協会に申し入れたところ、岐阜県と三重県のトラック協会が承諾。一般講習は1人当たり3100円、基礎講習8700円が補助される。

同本部では、5月17日に名古屋デジタル工科専門学校（名古屋市中村区）、6月1日はハートランス会議室（岐阜市）、7月27日には三重県トラック協会尾鷲研修センター（三重県尾鷲市）で、一般講習を予定。講師は佐藤義憲事務局長が務め、愛知運輸支局や中日本高速道路担当者ら外部講師にも依頼する。

佐藤氏は「助成を含め、多くの方に参加してもらえるよう努力する。遠隔地の方が受講しやすい環境も検討していく」と話した。（奥出和彦）

チャリティーフェス開催

大和高速運輸

地域住民へ感謝込める

子供用の制服を用意してパトカーと記念撮影できるブースを設置

【愛知】大和高速運輸（榊原正剛社長、愛知県安城市）は19日、本社敷地内でチャリティーフェスティバルを開き、近隣住民や従業員家族など300人以上が訪れた。

今年で15回目。車両ディーラーや用品メーカー、協力会社が協賛し、会場には安城警察署の協力で、制服に身を包んでパトカーと記念撮影できるブースも設置された。本社の近隣住民には回覧板で開催告知され、朝から長蛇の列ができるほどの盛況ぶり。来場者は共済会が手掛ける野菜の詰め放題やティッシュペーパーのプレゼント、食べ物屋台を楽しんだ。

榊原社長は「普段、我が社の事業に対する地域住民の理解に、感謝の気持ちを込めている。楽しみにしている人も多いので、長く継続していきたい」と話した。

最後は、液晶テレビなどが当たる大抽選会を行い、当日の売上金は交通遺児や地元の社会福祉団体に全額寄付した。（梅本誠治）

受賞者を代表し、舟元俊夫氏（日本通運金沢支店）

輸）▽森

中小企業をサポ

初任運転者む

【石川】石川県トラック協会は4月19日、初任運転者指導講習会を開いた。関係機関や車両メーカーなどの4人が講師を務め、最後に受講者全員へ修了証を交付。

法令で義務化された「新たに雇い入れた運転者に対する特別な指導」に該当するもので、個々による体系的な事故防止教育が難しい中小事業者をサポートする狙い。決められた4科目のカリキュラムを6時間かけて講義した。

天田敏勝事務局長は、安全運行に関する基本事項を説明。ドライバーの役割や使命、コンプライアンス（法令順守）の重要性に触れながら、「『絶対に事故は起こさない』という強い信念を持ってハンドルを握って欲しい。そのためには知識や経験の積み重ねが大切」

とアドバ

自動車事

支所の西山

故防止の留

共済協同組

松正樹所長

や回避のポ

講話。

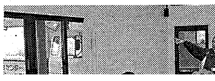
UDトラ

省エ

イト

【愛知】

木正夫社



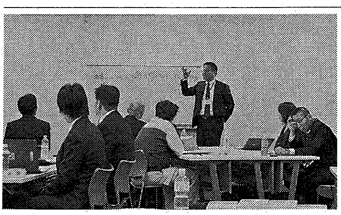
ドライ

ネ運転

社長

リーダーシップ強

ヤマネット　活発な行



目標達成に向けた思いを語る山田社長

【愛知】物流応援団ヤマネット（山田泰壮社長、愛知県一宮市）は4月19日、名古屋市で物流事業者の管理者や営業担当者を対象に

「リーダ

研修」を

「物流プ

「物流マ

ー」と合

座で構成

中心事業

月間の講